2015年2月1日発行（隔月発行）

# 図書館報 ぷらっつ★篠崎

040号

特集「 恋愛小説 」


P3 **そのメロディに魅せられて♪**
「テリーのテーマ （ライムライト）」
（「アカデミー主題歌賞・音楽賞曲集」収録）

P4 **人物ブックマーク**
「ヘンリー・ダーガー」

P4 **スタッフのセレクション！**
「車輪の下」 ヘッセ著

## チャレンジ・ザ・ドリームで中学生が図書館員体験！

チャレンジ・ザ・ドリームをご存じですか？ チャレンジ・ザ・ドリームとは、中学生による職場体験です。区立中学校の2年生全員が体験します。地域で働く人々との触れ合いを通して、自分の将来を考えていくことを目的としています。

本年度は12月に篠崎第二中学校、1月に篠崎中学校の生徒たちが図書館員体験をしていきました。図書館の資料の流れを学んだり、本の返却や整理、修理などの作業、カウンターでの接客など、図書館業務を一通り体験してもらいました。また、篠崎中学校の時には、書評合戦ビブリオバトルを開催！ 本好きなのが良く分かるような、素晴らしいプレゼンで、どの本も読みたくなりました。（ちなみにチャンプ本に選ばれたのは『猫といっしょにいるだけで』森下典子著 新潮文庫 中央所蔵です。）この5日間は生徒たちにとって充実したものになったのではないかと思います。

どんな作業も積極的かつ一生懸命取り組んでくれた中学生たち。常に真剣に取り組む彼らの姿を見て、私も初心を思い出しました。チャレンジ・ザ・ドリームは図書館だけでなく、様々な所で行われていますので見かけたら応援よろしくお願いします。

## 江戸川まいにんぐ 発掘 第40回 トロリーバスが走った風景

江戸川区内のイベントやスポットをスタッフが調査して身近な情報をお届けする、地域密着型のコーナーです。

皆様、しのざき文化プラザ企画展示ギャラリーの「昭和の街角。あの頃、えどがわ。」はもうご覧になりましたか？ 昭和30年代を中心とした懐かしの写真や品々の展示です。まだの方は2月22日（日）まで開催していますのでお急ぎください！

さて今回は、そんな昭和30年代に江戸川区を走っていた都営の“トロリーバス”をご紹介します。トロリーバスとは、直接架線から電気をとり、普通のゴムタイヤで走る電気自動車です。法的には鉄道法で管理される「電車」に分類されます。

昭和27（1952）年に、今井（現在の瑞江付近）と上野公園を結ぶ都内初のトロリーバス路線が開通しました。それまでに、今井地区には東荒川と今井橋を結ぶ都電が走っていたのですが、荒川放水路に架かる小松川橋上には軌道がなく、亀戸方面に向かうには、橋を徒歩で渡り、西荒川からまた乗り継ぐ必要がありました。それが乗り換えなしで都心に行けるようになったのですからまさに待望の路線だったことでしょう。

都内ではその後3系統のトロリーバスが開通しましたが、道路混雑の影響で輸送効率が低下し、順次廃止されていきます。今井発の路線が都内で一番長く営業し、昭和43年に廃止されるまで、多くの沿線の方に愛されました。

最終バス（昭和43年9月29日）
（写真提供：江戸川区郷土資料室）


参考資料

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 「江戸川区政50年史」 | 江戸川区区政情報室区史編纂室編 | 江戸川区 | K1-21 | 篠崎ほか所蔵 |
| 「むかしの江戸川区 郷土資料室解説シート」 | 江戸川区郷土資料室編 | 江戸川区郷土資料室 | K1-21 | 篠崎ほか所蔵 |
| 「昭和30年・40年代の江戸川区」 | 村上 昌ほか監修 | 三冬社 | K1-29 | 篠崎ほか所蔵 |
| 「日本のトロリーバス」 | 吉川 文夫著 | 電気車研究会 | V546.5ヨ | 中央所蔵 |


## イベント情報

**大人のための映画会 ～ライブラシネマ篠崎～**
**「わが命つきるとも」**
2月21日（土） 14時開演（13時30分開場）
場所：篠崎文化プラザ 講義室
定員：70名（当日受付、先着順）
どなたでも参加できます

**朗読に親しもう ～春の朗読会～**
出演：江戸川総合人生大学朗読会
3月15日（日） 14時開演（13時30分開場）
場所：篠崎文化プラザ 講義室
定員：50名（事前申込み制、先着順）
2月28日（土）14:00から図書館カウンターまたはお電話にて受付します。

江戸川総合人生大学朗読会の皆様をお迎えして、春の朗読会を開催いたします。毎年恒例のこの企画も今年で3回目となりました。朗読を通して、物語の楽しさを味わっていただければ幸いです。

## 人物ブックマーク

人物ブックマークとは、著名人とその著作および関連本を紹介するコーナーです。

### 第29葉　ヘンリー・ダーガー

**1973**年**4**月**13**日、**81**歳の孤独な老人がカトリック系の老人施設で静かに息を引き取った。その老人の名は、ヘンリー・ダーガーといった。

施設に入る前に住んでいた貸間には、トラック**2**台分のゴミと旅行鞄が残されていたのだが、その旅行鞄の中にとんでもないものがあった。

**1**万**5415**頁もある、恐らく世界最長のファンタジー小説**「非現実の王国で」**の原稿と、物語の挿絵である画集**3**冊。これらがダーガーの旅行鞄の中にあったのだ。

ダーガーは、近所の住人からは、人付き合いが悪く、みすぼらしい身なりのホームレスのような男と思われていたが、そんな彼が部屋に戻れば、長大で奇妙な物語の世界を、言葉と絵でもって創造していたのである。

小説の執筆は**1910**年から**1912**年の間頃から始められ、**30**年代末には終わっていた。その後、絵の方に取りかかり、最終的に、**60**年の歳月をかけて「王国」を完成させたのである。

ところで、彼の絵の描き方は変わっていて、「王国」を絵画化するための素材となるもの（雑誌など）を路地裏などから拾ってきて、それをトレースし、カーボン紙を用いてコピーしたりしながら絵を描いていったのである。

そんな彼の絵は“**アウトサイダー・アート**”と呼ばれ、高く評価されている。そのアウトサイダー・アートとは、「正規の美術教育を受けていない人の作品」または「何らかの意味で社会の周縁にいる人々の手になる特異な作品」のことをいう。彼の作品はニューヨーク近代美術館とパリ市立近代美術館に所蔵されている。

アメリカ社会の底辺で雑役夫の仕事をしていた男が小さな部屋の中で、特異な芸術を生み出していたのである。そのことを考えると、何をしているか分からない、得体の知れない人を妙な目で見てはいけないのである。もしかしたら、その人は偉大な芸術家なのかもしれないからだ。

**関連書**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| **「ヘンリー・ダーガー非現実を生きる」** | 小出　由紀子編著 | 平凡社 | 723タ | 篠崎ほか所蔵 |
| **「アウトサイダー・アート　現代美術が忘れた「芸術」」** | 服部　正著 | 光文社 | S702ハ | 中央ほか所蔵 |
| **「アウトサイダー・アート　芸術のはじまる場所」** | デイヴィド・マクラガン著 | 青土社 | 702マ | 中央所蔵 |

## スタッフのセレクション

篠崎図書館で働くスタッフが選んだおすすめ本を紹介します。

### 「車輪の下」

ヘッセ著　集英社文庫　B943ヘ　篠崎ほか所蔵

ノーベル賞作家、ヘッセの代表作で、これを読んだのは、短大1年のころです。それまでは日本文学ばかり読んでいたので、なにか海外文学を読みたいと思い、本屋で探していたところ、厚すぎず薄すぎないこの本が、目に留まりました。

主人公のハンスは自然を愛する秀才で、勉強に打ち込み神学校へと入学します。そこで出会うクラスメートや先生達に、多感なハンスは影響を受けるわけなんですが、いい影響はほとんどありません。成績は見る見るうちにさがり始め、結局ハンスは神学校を辞めることになってしまいます。そして職人として、また出直すことになるのですが、ハンスを待っていたのは、さみしい結末でした。

話は明るくありませんが、読んでいた当時、胸を打たれましたね。少年の挫折が美しく描かれていて、結末はともかく、似たような苦い経験は、まだ子供だった頃に、多くの方が味わったのではないでしょうか。自分はどちらかといえば、ハンスがしたようなことはほとんどなく、神学校の友人であるハイルナーがするようなことを、学校でしておりまして、毎日のように先生に怒られていましたね……。

この小説は、未成年の方と大人の方とでは、おそらく読後の感想が別々のものになるのではないでしょうか。なかなかどうして奥深い小説だと思うのです。

## 編集後記

別れの季節がやってきました。今年は溜まった体脂肪とお別れしたいです。（風雲ふわふわ丸）／お正月に念願の凧揚げをしました！　年明け早々胸いっぱい幸せな気分でした。2015年は良い年になりそうです。（かき氷職人）／いつか私にもBig Loveがやってきて……、いや、振られでもしたら心Damageあるので、家で本読んでマス。（M.弱尊）

編集・発行：江戸川区立篠崎図書館
住所：〒133-0061
江戸川区篠崎町7-20-19
篠崎文化プラザ内
TEL：03-3670-9102
[しのざき文化プラザHP]内篠崎図書館ページ
http://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/